

平成25年度 学校評価総括表

奈良県立高円高等学校

教育目標		本校の特性を生かし、感性を育み、心豊かな生徒の育成を目指す。				総合評価
運営方針		基礎学力の充実と規範意識の醸成を土台に、コミュニケーション力、自己表現力、社会性を持った人材を育成する。				B
		安全で安心な環境作りに努め、一人ひとりの個性を伸ばし、志の高い「生きる力」を持った人材を育成する。				
		県下唯一の芸術科を有する公立学校として、「誇り」と「自覚」を持ち、教職員が一体となって、魅力と活力ある学校を目指す。				
平成24年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		B
創立30周年記念事業を各方面の協力を得て終えることができた。研究授業や授業評価を生かしながら、学力の向上やコミュニケーション力の伸張に努め成果を上げてきているが、さらに取組を進める必要がある。生徒会活動やキャリア教育、交流活動の推進にも成果がみられた。生徒の規範意識、心の安定の面での課題があり、自ら律する心や豊かな人間性を育成する取組を推進していく。		学力の定着・向上と主体的な進路実現		授業改善に努め、学力の向上を図る取組を推し進める。キャリア教育を充実させ、生徒自らが主体的に進路選択できるよう指導する。		
		規範意識の醸成とコミュニケーション力、社会性の育成		生徒一人ひとりの理解に努め、はじめある生活態度や他者への思いやりの心を育成すると共に、自立心を育て社会の一員としての自覚を深めさせる。		
		心身の健康や体力の保持増進		教科指導や特別活動、保健指導等とおし、体力の向上を図り、健康への意識を高める。教育活動全体とおし、安定した細やかな心、強い心を育てる。		
		芸術教育の推進と交流活動の展開・発信		芸術教育の充実発展を図り、魅力と特色ある学校づくりに努める。交流活動とおし、地域や保護者、関係機関との連携を深め、情報発信に努める。		
評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
企画	学校行事等の円滑化	各分掌・グループ・学年・学科との連携や調整を密に図り、学校行事の円滑な運営を目指す。	A	主要行事では、各担当間で協力・補完し合い、円滑な運営を行うことができた。	引き続き、協力体制の強化とより一層の改良を図る。	様々な教育活動が行われていることに評価をいただいたが、行事が実施時期が集中してしまふ問題があり、今後も検討を加えていく必要がある。
	広報活動の充実	新聞や各種メディア等を利用した広報活動を一層充実させるとともに、中学校・学習塾等への積極的な情報提供を図り、本校のよさを広く伝えていく。	B	学校紹介パンフレット・説明会用パワーポイントのリニューアルを行った。校外の各説明会にも積極的に参加し、広報に努めた。本校を会場にした学校説明会では、4回でのべ799名の生徒・保護者の参加があった。一方、ホームページを利用した情報発信が弱かった点は反省をしたい。	ホームページにおける広報活動を充実させていく。	
	総合的な学習の充実	「高志創造」「下学上達」を積極的に取り組ませ、基礎学力の定着や表現力の向上を図る。「奈良TIME」の活用に向け、充実した学習内容の開発をおこなう。	A	「高志創造」「下学上達」は各学年で計画にそって展開し、一定の成果があった。「奈良TIME」は初年度ではあったが、高大連携や観光イベントの活用などさまざまな工夫によって充実した活動をした。	総合的な学習において高大連携の活用を一層図っていく。「下学上達」等では企画や準備に携わる負担の分散化を必要に応じて図っていく。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
教 務	生徒の計画的な学習による学力の定着・向上にむけて取り組む。	授業改善を狙いとする公開授業を実施する。長期休業中の宿題・課題テストを実施する。	B	公開授業、宿題、課題テストなど、定期的に行われている。また、実施に向けて啓発活動を行ってきた。	さらなる学力の定着・向上に向けての方策を考える必要がある。	学校からもまた家庭からも家庭学習の定着化を願う意見が出され、今後もより良い方法を考えていきたい。	
		新学習指導要領に基づく教育課程の検証・再編成をする。	C	新課程に移行し、各教科の目標を達成すべく努力しているが、充分とはいえない。	生徒の進路希望の状況を細かに把握して、その希望に反映できるよう開講。教科・科目及び、単位数、あるいは学習内容を精選していきたい。		
総 務	教職員全員が学校経営を担う意識の保持向上	会議、板書、掲示、書類配布等での連絡事項の徹底に努めるなど、全職員で情報の共有化を図る。	A	・「ジャストコンパス」により情報の共有化は効率化よく行われている。しかし、XPサポート切れの影響で撤去される準備室等のPCを代替するために、職員によっては職員室机上PCがなくなることが懸念されている。 ・「ジャストコンパス」による情報共有化のもう一つの形として、過去の職員朝礼での連絡事項をデータベース化して校務に利用できないか検討したい。	・過去の連絡事項のデータベース化については、情報システムGと連携し、業者からの意見を参考にしながら実現する。	入学式、卒業式等の諸行事でも生徒の行動、態度が良くなっていることが話され、その取組を更に継続させていくようにとのご意見をいただいた。	
	儀式での集中力の向上	担任、副担任による列内指導や授業での適切なはじめある指導を通し、集会等で私語がない状態にする。	A	B	集会への集合、整列は、担任、副担任の指導に加え生徒の自発的な行動で非常にスムーズであった。集会中も一部生徒をのぞき、私語のない状態で参加できていた。		今後は講話等の中身をしっかりと自分のものにできるよう考えながら聴く姿勢を養えるよう指導を工夫したい。
	保護者との意思疎通の向上	育友会学級役員との連携を図り、各行事への保護者参加率10%超を目指す。	C	各行事への保護者参加数を向上させるための具体的な方策はとれなかったが、育友会の役員を中心とした活動は非常に活発で、今後連携を強めたい。  ※参加率もさることながら、行事の際の駐車場をめぐる諸問題の解決を来年度の課題とした。	・育友会との連携は実情として事務室に負うところが大きい。事務室と連携すべき部分と役割分担を明確にし育友会との連携を強めたい。 ・生徒を通じて保護者に文書連絡をする際、一斉メールの活用、Webページの利用を併用して行う。		
情報システム	情報インフラ整備に係るシステム構築を目指す。	・入試システムを再構築する。(ストレス無く処理できるシステムが作成できれば到達度100%) ・学校ネットワークシステムの運用マニュアルを作成する。(すべての担当者が活用できるものができれば、到達度100%) ・分掌等から要望に応えたシステムを作成する。(すべての要望に応えることができれば、到達度100%)	B	・入試システム再構築は、アウトラインを作成中である。(60%) 運用することで、新たな課題と要求が見いだされると考えている。 ・マニュアルに関しては、業務内容の項目整理が進んだ。各項目の作業詳細まで記述し切れていない。(80%)より詳細な手順を記載することが次年度の課題である。 ・分掌等からの要望にはほぼ応えることができた。(90%)	入試システム、マニュアルのいずれも、運用した上で、加除修正を加えていく。	情報モラルの向上、プライバシー、ネット犯罪から子どもを守るため、様々な取組を願う声が出され、今後も情報教育を進めていきたい。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学習進路・キャリア教育	生徒の自発的な学習の啓発と主体的な進路実現の支援	・進路ガイドブックの充実や進路インフォメーションの発行等による生徒及び保護者への啓発に努める。(学期3回の発行) ・進路ガイダンスや大学見学会等の進路関係行事の改善と工夫を進め、効果的な実施をする。 ・生徒の学習習慣を図る行事等の実施や自発的に学習できる環境を整えるなどして生徒の主体的な学習のサポートをする。	A A	○模擬テストの精選やスタディサポートの実施方法・時期の効率化を図った。 ○ガイダンス等の進路行事は適切に実施できた。特に1年類型選択前のガイダンスは有効であった。 ○模試における公欠・欠席の対応に工夫はできないか ○実力養成講座やサテライン講座は受講者からは好評であった。 ○家庭学習が少ないことの改善を図りたい。	○数年前に設置したクラスのホワイトボード(宿題内容を掲示し量や質の適正化を図るため)の活用。 ○保護者への進路(就職や進学)への理解をどう図るか？	キャリア教育の充実を望む声が多く出された。 また学習習慣の定着のため、学習合宿を行ったことについては評価する意見をいただいた。  また進路情報などが保護者まで届きにくいとの意見が出され、進路講演会、進路説明会などの実施方法など今後改善を進めたい。
	本校におけるキャリア教育の構築と推進	・保護者対象のキャリア教育講演会を実施し、キャリア教育の理解と啓発、協力をはかる。 ・「キャリア デザイン ガイドブック」を編集・制作し、生徒向けのキャリア教育ホームルームの充実と工夫を行う。	A	○奈良文化女子短大の石田先生を講師に招いた保護者対象キャリア教育講演会は大変好評であった。ただ参加者が育友会役員の方が中心で、一般の保護者の参加が少なかった。 ○「キャリア デザイン ガイドブック2012」を編集・発行し、それを使ったHRも実施できた。	○「キャリア デザイン ガイドブック」を活用したHRの開催時期の工夫(2年は1学期末あたりか？)	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	・挨拶の徹底や遅刻の防止に努め、正しい言葉遣いの指導にも積極的に取り組む。特別な事情のない限り、全生徒が8:30には昇降口を通過できることを目標とする。同時にカッターシャツ、ブラウスの第一ボタンを締めさせるとともに、服装を正し生活させる。	C C	・挨拶は概ねできているが、覇気がない。又、挨拶をしない生徒が増えているように感じられる。次年度に向けて、明るく、元気良く、爽やかな挨拶ができるよう指導したい。 ・遅刻については、昨年より増加傾向であるため、何らかの対策が必要である。 ・服装については、概ね良好であった。又、カッターシャツ、ブラウスの第一ボタンについては、登校指導等において一定の成果をあげることができた。	・来年度も引き続き目標にする。 ・一斉登校指導を実施する。 ・クラブ員を中心に明るく、元気な挨拶を実践させ、学校全体をリードするよう指導したい。	挨拶をする生徒が以前に比べ少なくなってきているのではないかとのご意見をいただいた。しっかり挨拶をし覇気のある生徒を育成するための指導を実践していかなければならない。また自転車の事故防止について今後も指導を願う声が出され、事故防止に向けた啓発活動を続けていく必要がある。
	日常生活におけるのマナー・モラルの周知徹底	・登下校時における、公共交通機関でのマナー、モラルの周知徹底を図る。また、自転車事故や外部からの苦情等を少なくする。(昨年度の3割減を目標とする)	B	・自転車事故について大きな事故もなく、軽微な接触事故が4件と大きく減少した。 ・外部からの苦情、特別指導は減少した。又、バス停での待機状況も一列で並ぶよう指導したところ、生徒たちが自主的に実践できるようになった。	・全校集会や、各種講演会を実施し更なる向上を目指したい。 ・各機関から提供された情報をHRなどでアナウンスし注意喚起に努める。	
環境・安全	校内・校外美化の徹底と防火・防災・安全面の強化	・校内および校外美化活動を学期に1回実施する。 ・避難訓練を通じ防火、防災、の意識の向上を図る。 ・美化委員会を学期に1回以上実施し、校内美化に努める。	B	校内・校外美化活動を通して環境美化への取り組みを体験させることが出来た。 避難・消火訓練を通じて防火、防災への啓発に努めた。	継続して防火・防災に対する訓練、啓発を行い緊急地震速報受信時対応マニュアルの徹底をはかる。	生徒の奉仕的活動に評価の意見をいただき、今後も続けていきたい。

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
文化体育	生徒の自主的・自発的な活動の推進	・文化祭等の学校行事への関わり、校内美化、校外美化等への積極的な参加を奨励、推進する。(部活動を中心に活動計画・活動報告を生徒に考えさせ、実行するように働きかける)	B	・わずかではあるが生徒会役員が美化委員の活動に参加したり、植栽活動、休日に校外でのゴミ拾いなどを実施した。いずれは、遅刻者指導の一環でおこなわれる清掃活動にも参加し、ボランティア活動であるという意識付けを生徒たちに定着させる一助になり、更には一般生徒の参加もあればと望んでいる。 ・部活動の計画、報告に関する自主的な生徒の活動はできなかった。	・生徒の自主自発的活動を促すためにもまず生徒会役員がその範を示さなければならない。県生徒会サミットでも生徒が刺激を受けたように、いずれは集会などの行事の司会、進行、企画にも関与させる方策を模索する。 ・学科間の連携を一層密ににすべきであると考え。文化祭での芸術科の発表を他の学科の生徒たちにも広く広報し、体験させる	校外での活動についてその取組をすすめることに評価をいただいたが、今後は更に参加生徒が増加していくように取組をすすめていく必要がある。読書指導についても今後継続して書物に親しむ態度の育成、読書力の向上につなげていきたい。
	部活動の活性化	・本年度も部活対抗フットサル大会を生徒会・体育振興G共催で行い、各部の交流・部員の意欲の高揚を図る。文化系クラブにも参加を呼びかけ、1、2学期での開催を目指す。 ・新聞部による各部の活動の様子取材・広報を積極的に行う。同時にWebページを活用して各クラブによる自主的な広報活動にも取り組ませる。	B	B ・昨年より規模も広げた形でフットサル大会は実施できたが、1学期のみに止まった。同じ趣向のものを2、3学期にも実施することには困難を感じる。 ・新聞部の部員はいるが、広報につながるような活動には至らなかった。		
	図書館運営の活性化	・クラス文庫用の図書を充実させるとともに、クラスへの利用を積極的に働きかける。 ・課題研究や資料学習等教科での利用を一層活発化させるために、各教科との連携を深め奈良TIMEを利用して関連図書の充実に努める。 ・教職員の利用拡大を視野に入れ、奈良県立図書館クイックサービスの利用を積極的に広報する。	A	・クラス文庫活用のために眠っていた寄贈本の整理を始めた。 ・奈良TIMEを利用して授業で図書館を活用できた。またその祭に県立図書館クイックサービスを利用した。	・寄贈本の整理を今後も継続しておこなう。	
健康教育	自分の健康状態を把握し、自己管理出来る生徒を育成する。	・保健委員会の活動を通して健康意識の向上を図る。また、文化祭における展示発表を行い啓発活動を行う。 ・保健便りを月1回発行し、健康意識を高める。	A	・文化祭の「レシビ甲子園」は校外のコンテストにおいても優秀賞、団体賞を受賞し、食育への意識が高まった。 ・保健便りは月1回発行でき、保健委員会のアンケートでは「役だった」が27.8%「まあ役だった」と回答したものが66.7%であった。	・今後さらに生徒達の興味を引く内容等を検討し、文化祭展示や保健便りを通じて健康増進について啓発していきたい。	高校においてピアサポートの取組が行われていることに評価をいただいた。今後も自発的に取り組む姿勢を持った生徒を育成するため継続して進めていきたい。
	・健康相談の定着 ・特別支援教育の充実	・ピア・クラブ委員会を月1回実施する。 ・ピアサポーターとの連携を図り生徒理解に活用する。 ・スクールカウンセラーと連携し、適切な援助を行う。	B	ピアクラブ委員にグループホーム訪問に向けての研修、ふり返りなどを行った。しかし定例の委員会は持っていない。 ピアサポーター、スクールカウンセラーとの連携をスムーズに行えた。	ピアサポーター、スクールカウンセラーとの連携をより深める。	
人権教育	人権に関する知的理解と、人権意識、感覚の向上を図る。	・現地研修及びバルツァゴードル(重症心身障害児施設)での研修を通して、人権問題に対する意識の向上を図る。 ・人権HRの実施、奈良養護学校・バルツァゴードルとの交流を通して、生徒の人権意識の向上をはかる。(年5回の交流会の実施)	B	・横井支部(今回は水平社博物館)、バルツァゴードルでの研修は、共に現地で声を聞き、見、人の思いを再確認し、人権に対する意識は高まった。 ・奈良養護学校へ3回。バルツァゴードルへ2回。交流委員の生徒達は、接し方や感じる心等、貴重な体験をした。	・現地での研修は必要。この意識の高まりを全体に広げる研修会を実施。 ・こちらも交流委員だけでなく、他の生徒達にも実感できるHRを展開する。	バルツァゴードルや養護学校との交流、施設への訪問等人権教育に関する取組の継続が望まれた。

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
第1学年	基本的な生活習慣の確立と実践を図る。	欠席・遅刻の人数の減少に努める。(学年として出席率99%以上を目指す。)身だしなみや言動等の指導を徹底し、集団行動の中で規範意識を持たせる。(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の2%以内を目指す。)	B	長欠生徒が数人おり、出席率は99%に届かないが、大半の生徒は欠席・遅刻が少なく安定した学校生活を送っている。服装・頭髪はおおむね良好で、挨拶・言葉遣いもよくなってきている。しかしながら2学期末に特別指導を要する事象が連続したのは残念なことであった。	長欠生徒は中学時よりその傾向にあり、中学校との連携をはかり入学当初よりきめ細かい指導を行う。	特になし	
	課題や小テストを課し、家庭学習の習慣づけと学力の向上を図る。	「下学上達」に積極的に取り組ませ、基礎学力の定着を図る。課題提出の厳守を徹底させ、欠点者ゼロを目指す。	B	B	「下学上達」は計画的に実施し、おおむね目標を達成できた。しかし各教科の課題に対してなかなか全員が期限内に提出することができず長期に渡って指導をしなければならない者もいた。家庭学習が定着していない生徒も多くなる。		不十分な生徒に対しては担任・教科担当・クラブ顧問・家庭が連携を密にし、課題提出の徹底を指導する。
	教科指導や部活動をとおり、自己表現力(聞く力、話す力、コミュニケーション力)の獲得を目指す。	体育大会や文化祭など、学校行事や学級活動に積極的に参加させることで、仲間作り、他の生徒を尊重する態度を養う。	B	体育大会・文化祭に対しては積極的に参加し、クラスの団結等目標は達成できた。集会における聞く姿勢も順次よくなってきている。ただ周囲に対して積極的に働きかけられない生徒もおり、継続的な指導が必要である。	集団における自己の役割を認識させ、自信の持てる指導を行う。		
第2学年	1年時に身に付いた基本的な生活習慣をより充実したものにし、本校生としての誇りと自覚を持たせ、規範意識の高い生徒に育てる。特に時間を厳守する態度を育てる。	欠席・遅刻・早退・保健室利用者の人数の減少に努める。(遅刻は1学期5回以内、年間15回以内を目標とする。)服装・頭髪等を正すなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底し、集団行動の中で規則や規範の重要性を実感させる。(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の2%以内を目指す。)	B	進路の悩みや精神的な問題から長期欠席をする生徒が数名みられるが、それ以外の生徒は欠席・遅刻、早退も少なく日々落ち着いた学校生活が送れているように思われる。しかし遅刻については、年間15回以上する生徒が5名ほどいた。そんな中、修学旅行については在籍生徒全員参加し、問題もなく帰宅させることができたことはよかった。頭髪等の指導は各考査ごとに検査し、改善させ、違反者は皆無に近かったと思われる。特別指導は生徒数の1%以下で目標は達成できた。	来年度も遅刻にたいしては、厳しく対処しなければ、限られた生徒ではあるが、改善されないと思われる。長欠者や、心に問題を抱えている生徒については、今年以上に本人、保護者と接触し、情報の交換を計る。	特になし	
	一人ひとりの個性を尊重し、ともに支え、いたわり合う態度を養う。	HR・人権教育HRや学年集会・総合的な学習、校外学習の時間など、あらゆる機会をとらえて自己を確かめる中、他を「互いを認め合う」姿勢を養い、実践する力を身につけさせる。	B	B	人権HRについては、各担任の輪番制で、生徒の内面に入り込めるような内容を作っていたが、事前事後の研修も含め充実したものであった。1年時は人間関係の中で少しトラブルも見られたが、今年度は大きな問題なく互いに個人を認め合う様子が伺えた。あるクラスでは、修学旅行中、怪我で車椅子参加の生徒多くの生徒が手助けし、クラス全体で支えている様子が見られた。		生徒指導は、生徒との信頼関係から成り立っているため、保護者と共に、何のための指導であるか、理解させる。
	基礎学力の更なる向上および、前向きな学習態度の修得、課題提出の厳守と家庭学習の習慣化を図る。	各課題の提出を生徒に守らせるように徹底する。(提出遅れゼロを目標とする。)家庭学習を定着させるため、予習の仕方から指導し、全生徒が家庭で予習する習慣づけを行う。	B	「下学上達」、各教科の小テスト等は計画的に、的確にやっていたため、少しずつではあるが、成果は出ているように思われる。ただ各教科の課題については、やはり100%の提出はされず、成績面で大きな陰を落としている。その事は、2学期末の考査での欠点保有者の多さに現れている。また、進路への意識がまだまだ低いため、計画的に学習する姿勢が希薄である。	生徒自身の進路に対する意識を高め、自分の人生観を高める指導を心がけ、何事に対しても、謙虚に真面目に前向きに取り組む姿勢を養う。		

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第3学年	礼儀・マナーの大切さに気づかせ、基本的な生活習慣を定着させるとともに規範意識を高める。	遅刻・早退・保健室利用者の人数の減少に努める。(1学期5回以内、年間15回以内を目標とする。)服装・頭髪・言葉遣い等を正すなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底し、集団行動の中で規則や規範の重要性を実感させる。(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の2%以内を目指す。)	B	遅刻を年間15回以上した者は23名であった。残念ながら遅刻回数も前年度を大きく上回り、目標は達成できなかった。服装違反や頭髪違反の生徒は以前に比べかなり減った。学期に1回の学年集会を実施し、集団行動と学年の団結を促した。また、特別指導を受けた生徒の割合は第3学年の生徒数の1.3パーセントであったので目標は達成できた。	生徒一人一人に対するよりきめ細かな指導が必要となってきた。職員間の情報交換の場や共通理解のための工夫を行う。	特になし
	心身の健康を保持増進するとともに、一人一人の人間の個性を尊重し、ともに支え合う態度を養う。	人権教育HRや学年集会・総合的な学習の時間など、さまざまな機会をとらえて自己を見つめさせ、「認め合う」姿勢を養う。	B	前年度から引き続いての不登校傾向の生徒に加えて、病気による長期欠席者が数名出た。進路決定に伴うプレッシャーから精神的に不安定になる生徒も数名見られた。人権教育HRではグループワークを中心に取り組むことができた。	昨年度から指摘があるように、プレッシャーに弱い生徒への対策が必要である。	
	各生徒が目標とする進路を実現できるように必要な支援を行う。	各種ガイダンス、面接講習、学年集会、面談などを行い、進路に向けての意識・意欲を高める。	B	2年生3学期から受験に向けて学習意欲や意識の向上をはかったので、早い時期から取り組む生徒が増えた。その結果、専門学校志望者が減り、4年制大学の志望者が増えた。保護者の進路に対する考え方に教員とのギャップが見られるケースがあった。	保護者の進路に対する理解を深めるための進路指導についての説明の機会を設ける。	